

事業の実施状況等について

【住吉区】 (受託者等: 社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

項目	
(1)「I 地域課題への取組」についての分析	<p>01 墨江地域活動協議会 ニーズに対して担当者を決定し新規行事を立ち上げたり、既存の事業についてもより幅広い参加を募ることができるようリニューアルするなど、課題に対する取組はスムーズである。青少年育成部が実行部隊となってさまざまな事業・イベントを実施しており、参加者も多い。CBへの着手を検討中。</p> <p>02 清水丘地域活動協議会 取組自体はおおむねスムーズに進行するが、課題と認識され取組に至るまでには時間とタイミングが必要である。各事業担当ごと、構成団体ごとには課題意識をもちニーズも把握しているが、地活協全体で情報共有をはかる機会がないため、個別の対応に留まることが多い。コミュニティ回収に関心を寄せている。</p> <p>03 おりおの地活協 コンパクトなエリアながらさまざまな行事・イベントを開催している。見守り活動に熱心に取り組んでいるほか、おりおのカフェ(喫茶)では相談窓口を設け、来場者からの相談に応じるとともにサービス利用や給付等につなげるなど、リアルタイムな課題対応を実現している。コミュニティ回収について議論を進めている。</p> <p>04 地活協東粉浜 認可地縁団体の法人格を有している。青壮年団と福祉会館の事務所機能が有機的に連携しており、課題把握や対応がスムーズである。H30.10～コミュニティ回収を開始、放置自転車対策、広報紙配布と合わせて3CB事業を実施している。</p> <p>05 住吉連合地域活動協議会 大きく3つのエリアに区分され、その広さ、構成団体数の多さや実施会場等の面からひとまとまりの活動に難しさを抱えているが、地活協の名入りジャンパーを着用しての活動や、全地域を対象とした救急カプセルの配布など、地活協一体となつての取組をめざしている。R1.6～コミュニティ回収に着手、広報紙配布にも関心をもち、</p> <p>06 長居地域活動協議会 区内でも1、2の世帯数と人口を有する。エリアが東西に長く、各種会議等において外形的な課題共有はなされているが、町会によって温度差があり、自身以外の構成団体の活動にあまり興味を持たない。ただ次世代は着実に育ってきており、地活協広報紙を発行するなど新しい取組にも意欲を見せる。CB着手を検討中。</p> <p>07 依羅地域活動協議会 町会ごとの活動が多く、定例会以外に地活協全体の課題やニーズを把握・共有する機会や手段がなかったが、地域支援事務所が開設されたことで地域のアンテナや窓口として機能し始めている。一部町会がH27より苺田南地活協との共同体として自転車啓発CBに取り組んでいる。</p> <p>08 南住吉連合地域活動協議会 日常の活動は町会が中心だが、定例会へは多くの団体が参加し情報や課題の共有を図るとともに、地域全体で取り組む事業の実施をめざしている。それぞれが熱心であるとともに、他町会との情報交換なども活発に行われている一方、新規・既存事業における他団体との連携やCBの着手検討など、新しい取組にも柔軟に対応する。</p> <p>09 山之内スマイル協議会 区に先んじて開始した見守り活動の充実により、対象者に応じた訪問活動を継続的に行いながら課題やニーズの把握に努め、月末の定例会議や反省会において情報を共有している。広報紙配布CBを導入しており、自主財源の確保と見守り活動ツールとしての活用とを両立している。H30からはコミュニティ回収も開始している。</p> <p>10 苺田地域活動協議会 地域会館を活用し各種事業を実施しているほか、圏域担当の社会福祉法人などとも連携、行事に参画してもらうなど、課題把握と解決が図られている。役員層の高齢化が進んでいるが、はぐくみやPTA等を中心にイベントを開催するなど、担い手層も見えている。前年度より引き続いてコミュニティ回収の実施を検討している。</p> <p>11 苺田南地域活動協議会 平成26年度からは自転車利用適正化、平成30年度からは広報紙配付といったCBに取り組んでおり、地域課題の解決と自主財源の確保に取り組んでいる。また広報紙配布の機会を活用してポランテア募集広告を配布し、新たな担い手の発掘にも取り組んでいる。</p> <p>12 苺田北ほほえみ協議会 複数場所で開催のふれあい喫茶や食事サービス事業において地域課題やニーズを把握、地域に理解が浸透するよう話し合いの機会も多い。ほほえみ健康体操については、地域内の社会福祉法人や医療機関・包括支援センター等と連携実施している。今年度より広報紙配布CBに着手。</p>

百律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)

(2)「II つながりの拡充」についての分析

<p>01 墨江地域活動協議会 各種行事に際し、目を引くデザインのポスターやチラシを掲示板やホームページなどに表掲、広く参加者を募るよう取り組んでいる。役員世代と若手世代(青少年育成部)の連携が図られており、担い手の発掘も行われている。ニーズに合わせ地域外の団体等とも連携している。</p> <p>02 清水丘地域活動協議会 構成団体以外の地域の団体や事業所等との連携は、個別にはなされているが、地活協全体としては世代間の意思疎通が円滑ではなく、構成団体間・活動主体間の連携や協働が限定されている。定例会は町会長と女性部長のみの出席であり、地域全体で情報・意識共有の機会を持つことが難しい。</p> <p>03 おりおの地活協 世代を問わず楽しめるイベント(わいわい寄席・わいわい市)や交流・相談の場(ふれあいカフェ)を創出、広報「すみよし」へ寄稿を行ったり、ポスターやチラシの配布・掲示・ツイッターを活用し効果的な参加の呼びかけを行っており、かかわりの薄かった住民にもつながりをもってもらえる機会となるよう取組が進められている。各種事業・イベントについては、はぐくみや青指青福など若手世代中心の町づくり部会と、ネットワーク委員会などが中心の福祉部が実施していることが多いが、課題や状況に応じ、それら以外の人物や団体ともゆるやかにつながりながら活動している。その他の行事についてもポスターやチラシを作成・表掲、広く住民に参加周知を行っている。</p> <p>04 地活協東粉浜 強固な地域コミュニティを基盤としつつ、事業やイベントにおいて他組織や他団体との協働についても理解・対応している。ポスターやチラシを作成し活動の周知や参加の呼びかけを行っているほか、広報紙(区)配布CBと並行した広報紙(地活通信)の発行に向け取組を進めている。</p> <p>05 住吉連合地域活動協議会 広い地域を地域教育部が取りまとめることで、小中学校エリアの活動主体間では相互に情報交換などを行っており、実務部分での連携が進んでいる。また、地域福祉部の主導による取組や会議の開催等において、地域福祉部員・民生委員・町会役員間での連携が進んできている。個別の団体においては企業店舗等との連携も行われている。</p> <p>06 長居地域活動協議会 若手世代層に働きかけることで担い手の確保育成を図るとともに、課題に応じ地活協構成団体以外との連携も検討。地活協広報紙の発行を開始したことで、情報発信のほか担い手の拡大や参加周知等の面においても利活用の可能性を見出す。前年度に連携の話が出たNPOとも継続して関係性を保っている。</p> <p>07 依羅地域活動協議会 地活協構成団体へ参加を呼びかけることで、PTAや学体事業従事者など若い世代も定例会に出席するようになり、従前の町会長会議よりも幅広い議論がなされるようになってきている。個別の団体・活動主体においては外部組織団体との柔軟な連携が見られ、地域全体でそうした事例や情報の共有を進めることが必要と考える。</p> <p>08 南住吉連合地域活動協議会 年に一度の行事ながら、『えーまちフェスタ』(平成25年度より継続開催)に関連する取組が進むことで、構成団体間・活動主体間の連携・協働の認識が広がっており、地活協意識の浸透にも役立っている。事業実施は町会中心だが、町会間の交流などもあることから、地活協としての日常的なつながりに向けた取組は進んでいる。</p> <p>09 山之内スマイル協議会 独自事業として開始した見守り活動により、ボランティア参加層が徐々に拡大している。事務所機能が高く、活動主体間・団体間での情報共有や連携もよく行われている。子ども食堂や福祉まつりなどでは大阪市立大学や福祉事業者などと連携しており、つながりが強固である。</p> <p>10 苺田地域活動協議会 実行委員会方式の事業実施により、委員会会議において若い世代や活動主体・団体の発言や意見交換がよくなされるようになってきている。交流ライブに地活協役員が出席したことがきっかけで、盆踊り開催時に学生ボランティアと連携するなど新たなつながりを生んでいる。</p> <p>11 苺田南地域活動協議会 部会制運営の導入によって幅広い層の参画を図っているが、次代の担い手が不在であり、役員間にもその課題意識は共有されている。ボランティア募集チラシの配布により、新たな活動者を発掘した。</p> <p>12 苺田北ほほえみ協議会 地域の福祉系事業所と連携し健康体操を実施。地活協運営の担い手に若い世代を取り入れられるよう情報部を設置、ホームページの運用などを担当してもらっている。また、広報紙配布CBの着手に向けては、連合非加盟の町会にも従事協力を依頼するなど、地域一体となって取り組もうという姿勢がうかがえる。</p>
--

(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析

- 01 墨江地域活動協議会
広報活動においては、地域内NPO代表が広報部長として参画しており、ホームページ運営はもとより各種SNSの更新やポスター・チラシの作成などにITを幅広く活用、迅速な事業周知及び事業報告を実現している。地活協議と町会長会議を同日開催し、都度議事録を作成、欠席者にも資料配布と情報伝達を行うなど、安定した組織運営がなされている。
- 02 清水丘地域活動協議会
運動会を実行委員会形式での開催に変更するとともに所属・団体を越えた人材募集を行うなど、事業によっては開かれた一面もみられるが、月次定例会議においては町会長・各町会女性部長のみの出席に留まっている。会計はほぼ適切に取り扱われているが、総括取りまとめを会長が一手に引き受けており、共有者・引き継ぎ者の不在が心配される。
- 03 おりおの地活協
部会制を導入、各部会ごとに事業を実施し、総会で運営及び活動の報告が行われる。若い担い手によるホームページ更新などの情報発信を行っている。月次定例会議については基本的に町会長と連合女性部長のみの出席だが、各事業担当者や構成団体代表などが参加して依頼や報告を行うなど、少しずつ開かれた組織運営への理解が深まっている。会計処理については、事業会計や団体会計を包含し地活協全体での集約ができる仕組みを導入し、総括会計担当者のもと適切な執行に努めている。
- 04 地活協東粉浜
地活協取組以前より法人格(認可地縁団体)を取得しており、事務所機能が非常に高いことから、日常的に地域内の情報や状況を共有し事業を実施している。定例会議は隔月開催だが、すべての構成団体代表が参加し、報告や発言がなされている。
- 05 住吉連合地域活動協議会
3小2中学区にまたがり27町会を包含する広大な地活協であり、構成団体数も70を超える。地活協の定例会議は二か月に一度だが、月次の町会長会議や部会長会議において意見交換・情報共有を行っている。エリアごと、町会ごとに実施される活動が多く、部会に期待される機能や役割が多いことから、部会間の交流や情報共有が求められる。会計処理については、総括会計担当者の細かく密な対応によるところが大きい。地域における補助金ルールの理解共有が図られ、適正な処理に努めている。
- 06長居地域活動協議会
比較的早い段階より、運営委員会と連合町会会議を合同で開催、多くの構成団体が出席し議事を行っている。ホームページを開設し、広報紙の発行を開始するなど情報発信にも積極的である。総会計が交代したことで、各事業の会計担当との情報共有を図る場を設定する必要がある。
- 07 依羅地域活動協議会
平成29年3月より運営委員会を開催しているが、町会や構成団体によって地活協に対する理解の差があり、役員交代などのたびに地活協の意義や役割について議論が生じる。ただ、構成団体からは安定して出席者が出るようになってきており、地域支援事務所を中心とした情報の収集と発信を図っている。
- 08 南住吉連合地域活動協議会
活動は町会ごとに依るものの、月次の定例会議に関してはほとんどの構成団体が出席するなど、運営意識は定着している。総括会計担当者のスキルが非常に高く、会計処理や補助金活用にかかるルールについては総括会計が各事業担当者へ説明し、理解の浸透が図られている。会計書類についても総括会計担当者により編纂され、個別修正などについても柔軟かつ適切に対応している。広報活動については地域内の掲示板の積極的な活用のほか、ホームページやFacebookの更新もよく行われている。
- 09 山之内スマイル協議会
NPO法人格を有していた(現在は解散)こともあり、会議開催・議決・会計事務等組織運営については一定理解している。今後は高い事務局機能を継承していくことが課題だが、その認識も有しており、担い手の発掘を行っている。ICTの活用なども提案しているが、対象と想定している層が高齢であるため、紙媒体による広報がよく行われている。
- 10 荻田地域活動協議会
会議開催時は多くの構成団体が出席し、皆が均しく発言できる機会を設けている。今年度より会長が交代したことで、より議論を重視し、改めて地域の結束を高めるよう配慮している。設立当初より地活協会計・連合会計・社協会計を独立させ、分担金支出や収入時に牽制が働くような仕組みを取り入れている。ホームページを運営しており、各事業の周知案内などにも努めている。
- 11 荻田南地域活動協議会
規約では部会による運営を定めているが、団体＝事業という理解が一部に残っており、地活協運営や新規の事業参画を阻害する要因となりうるため、地活協概念と部会制運営の理解が浸透するよう取り組んでいる。ICTを担い手の人材が不在であり、会計ソフトの活用や電子媒体による広報活動には苦慮している。
- 12 荻田北ほほえみ協議会
会議等は安定的に開催されているが、地域内の人間関係がしばしば組織運営へ影響を与える。会計処理については、事務所機能を有する会館運営が繁忙であることや、事業会計担当者の交代に伴う会計ルールの継承不全などから、対応に時間がかかることがある。広報については、ホームページを開設し、広く周知に努めている。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※) I・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
- II・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
・地域活動協議会を構成する活動主体同士との連携・協働【外部との連携】 ・II 地域公共人材の活用
- III・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動

項目(※)	I	II	III	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
	○	○	○	<p>【広報の充実】 地域活動の周知理解と参加者増のため、既存のチラシやポスターによるお知らせや案内のほか、ICTも活用しより広く広報ができるよう支援を行う。</p>	<p>□『キラリ！ポスター・チラシづくりセミナー』(6/17) 興味を引き目に止まるようなデザインのチラシやポスターの作成をめざし、地域公共人材を活用してセミナーを開催(6/17)</p> <p>□広報紙にかかる支援 ・広報紙発行にかかる支援 長居:前年度の広報委員会設置から初号発行(3月)までの支援に引き続き、本年度も第2号(6月)の発行に関わる支援を行った。 東粉浜:前年度よりレイアウト提案、発行体制の検討などを支援、本年度中の発行をめざす ・地活協広報紙発行の提案 区広報紙配布CBを実施している地域(東粉浜、山之内、荏田南、荏田北)において、広報紙発行を提案。</p> <p>□PC教室の開催(山之内、6月～) 広報に関する地域ニーズへの対応と担い手の発掘を目的として、地域NPOに講師を依頼し月一回開催。</p> <p>□ICTにかかる支援 ホームページ未開設の地域(3地域/12地域)に対し、開設の提案やサンプルページの作成等を行っている。 情報更新と閲覧者との双方向のやり取りが可能なSNSにつき、既設地域(4地域/12地域)においては運用にかかる支援を、その他の未設地域においては情報提供や開設提案を行っている。</p> <p>□盆踊りの配布物に「詐欺に注意しましょう」などの文言と地活協名の印刷された『地活シール』を貼付(清水丘、荏田、荏田南) など</p>	<p>□セミナー参加者からは好評をいただいております、継続的に地域で取組む必要性についても一定理解を得られたと考える。 [アンケート結果] 大変よかった・よかった →90% 今後もぜひ参加したい・参加したい →80%</p> <p>□インターネットから距離の遠い世代への訴求という観点から、高齢者層が手にしやすい紙媒体での広報について関心をもつ地域が多く、広報紙の発行に向けた理解が進んでいる。</p> <p>□山之内PC教室は、新たな参加者の募集と獲得のほか、参加によるスキルアップがチラシづくりなど地域の広報活動に活用されることを目途としており、担い手の発掘と育成の両面においても効果をもたらしている。また、地域NPOに講師依頼をすることで、新たなつながりの構築ともなっている。</p> <p>□地活協会会長会での提案など、折に触れ提言・助言を行い、継続的に情報発信の重要性を説明することで、既にホームページを開設している地域においては役員間の認知度が向上し、未開設の地域においても担当者の発掘など開設の準備が進んでいる。</p> <p>□『地活シール』については、既に何度か発行・貼付している地域ではその活用についての理解が相当深まっており、未実施の地域からも問い合わせがあるなど関心をもたれている。</p>	<p>□チラシ・ポスターづくりについては、アンケート結果も踏まえ、地域公共人材の活用も含めつつ、地域ごと・事業ごとに関心事に合わせたセミナーの開催を提案・検討する。</p> <p>□広報紙発行への興味を動き出しにつなげられるよう、先行2地域や他区の情報・状況提供や、既存広報素材・チラシ・ポスターの更新や、簡素なレイアウトのプレ版の発行など、取り組みやすいものについて提案・支援を行う。</p> <p>□ICTの活用については、継続した提案説明により理解が深まり、取り組んでいただける地域も増えているが、運用面においては掲載情報や更新頻度、プライバシー配慮等留意する必要がある事項に関し、周知徹底を図る必要がある。また、住民に向けても認知度が高まるよう、周知に努める。</p> <p>□「地域活動協議会」(名)の視覚的な露出機会を増やす取組を検討する。</p>
				<p>・広報について、新規開始～開始後の運用支援～担当者のスキルアップなど、幅広く継続的に支援している。 ・地域広報紙の広報委員会やICT担当者を立てるにあたって、新たな若手人材の登用や、担い手の育成につながっており、評価できる。</p>	<p>・『キラリ！ポスター・チラシづくりセミナー』は、全12地活協のチラシ・ポスター作成に携わる方を対象に開催され、20名以上の方が参加された。セミナーでは参加者のスキルアップとともに、グループワークにより地域間の情報交換が行われ、アンケートでも好評であった。 ・長居地域で発行された地域広報紙「長居付近」創刊号(H31.3発行)では、地域のシンボルにしたいお花を募集し、6月末時点で40通を超える応募が寄せられるなどの反響があった。 ・PC教室の事例は、NPOの強みを活かしつつ、元々興味をもつ参加者のスキルを伸ばしながら担い手としての育成を兼ねており、好事例として他地域にも広げられたい。</p>	<p>・チラシ・ポスターづくりセミナー実施後のアンケートでは、広報のみでなく他分野でのセミナー希望も伺えたので、必要に応じて地域公共人材など活用しながら、地域の要望に応じてもらいたい。 ・地域広報紙は、自身で情報を見に行かないといけない電子媒体と比べ、簡単に全住民に情報発信が可能な手段であるので、引き続き広めてほしい。 ・対して電子媒体は即時性があり、直前の開催判断や場所変更など手軽に発信できるので、こちらも併せて引き続きの支援を願いたい。更新頻度や内容のブラッシュアップについて助言をおこなうとともに、地域住民に電子広報媒体の存在を知ってもらうための「広報の広報」支援策についても検討されたい。</p>	

事業の実施状況及び効果
百律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)

○			<p>【事業内容のブラッシュアップの提案】 参加者増などが期待できる魅力ある事業となるよう、既存の活動・事業について実施状況の点検・ふりかえりを行うなどにより、刷新や改善につなげるよう支援する。</p>	<p>□地域のニーズに対応し、本年度より百歳体操を開始。関係機関との調整や宣伝案内チラシの作成、会場レイアウトに関する助言等支援を行った。(荻田南)</p> <p>□各種事業の視察やヒアリングなどを行い、事業担当者、区役所支援室、区役所、福祉系事業者、社協などと情報を共有。意見交換の場でチラシの作成や他事業との連携、食事サービスのメニュー改善などを提案。地域においても、従事者の意見交換の場の設定や利用者アンケートのなどを提案・実施。</p> <p>□各種事業従事者の連絡会、交流会や常駐委員会、NW会議等の開催を社協とともに支援しつつ、情報収集などを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども見守り隊(全地域) ・高齢者食事サービス(全地域) ・子育てサロン(全地域) ・見守りボランティア(全地域) ・常駐支援員会議(遠里小野、依羅) <p>など</p> <p>・日常的に地域によく出向き、ニーズの拾い上げから事業改善に至るまで、受託者と連携しながら行っている。 ・連絡会や交流会のように、事業担当者間の情報交換や横のつながりとなる場合は有効であると考えます。</p>	<p>□新規に事業を開始したことに対する満足の声が多い。使用する機材や会場設備などについて意見を聴取し、よりよい実施に向け地域とともに検討している。(荻田南)</p> <p>□ふれあい喫茶において従事者の生の声を聴取、事業の現状やニーズに応じた取組をもとに考えることで、地域で事業を見直す契機とした。(荻田)</p> <p>□子育てサロンにおいて、参加者に喜んでもらえるような企画内容を地域とともに検討した。(荻田北)</p> <p>□各種事業や会議において、地域でかかわる社協、地区社協、保健福祉センターなどと情報交換・共有を行うことで、組織間のつながりを構築している。</p> <p>□交流会や連絡会においては、参加者同士の情報共有の場を設定することで、地域が他地域の状況を知り、自身の地域での事業改善等につなげることが期待できる。また、視察等交流機会の検討も行われている。</p>	<p>□百歳体操事業を継続する中で、参加者・従事者それぞれの声を聞いて改善や改良を行うなど、自立的・自発的な事業実施につながるよう支援する。(荻田南)</p> <p>□他地域の取組事例を紹介、見学の提案などを行う。</p> <p>□事業実施現場を訪問・視察することは、従事状況の確認のみならず参加者の意見を収集できる貴重な機会であり、また福祉系事業者や社協ボランティアとも情報共有・意見交換できることから、社協と密に連携、支援することで、よりさまざまな地域課題や住民ニーズの把握が可能となると考える。</p> <p>□地域ごと、部門ごとあるいは部門相互の横のつながりを構築することで、情報交換・共有を図ることができるような支援が引き続き必要であると考えます。</p>
○	○	○	<p>【人材・担い手の発掘】 幅広い担い手募集の提案と募集にかかる支援を行う。 地域活動に興味関心を持つ団体や企業・NPOを発見・発掘し、地域と連携した活動ができるよう支援を行う。</p>	<p>□担い手発掘の取組としてボランティアの募集を提案。広報紙配布CBとともにチラシを配布することを提案し、チラシ作成などの支援を行った。(荻田南)</p> <p>□『第5回まちづくり交流ライブ』の開催(7.2) 前年度の開催時に見えてきた企業・NPOと地域とのつながりを深めるため、協働の実現に向けた企業・NPOと地域が交流するためのプランを検討し、改めて別の日に実施に向けた打合せを行った。また、参加者同士の交流を深めるための企画を提案した。</p> <p>など</p> <p>・広報紙配布CBを受託していることにより全戸配布の機会を有していることを活かし、併せて地活協のチラシの配布をおこなったことは、新たな情報発信の手段として評価できる。ボランティア募集のほかにも地活協の認知度向上や活動紹介、イベント周知など様々な情報発信が行えるので、今後地域広報紙として定期的に発行する形態づくりも視野に入れつつ、活用を続けられたい。</p>	<p>□ボランティア募集に申し込みのあった方に子育てサロンのお手伝いを依頼した(荻田南)</p> <p>□『交流ライブ』によって企業・NPOと地域とのつながりを構築した事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語学校留学生が地域のお祭りに参加(長居) ・海外研修生が盆踊りに参加(荻田・荻田南・荻田北) ・学生NPOが盆踊りの出店のお手伝いをした(荻田) ・商店街が盆踊りへの出店を検討(荻田) <p>・全地域住民に届くボランティア募集から、実際に応募つながり評価できる。 ・交流ライブでは、日本文化に触れ日本人と交流したいという留学生・海外研修生のニーズと、若い方にたくさん盆踊りに参加してほしいという地域のニーズをマッチングさせた。今後よりお互いに有益な協働となり、つながりが続いていくよう、役割をもった参加ができれば尚良い。</p>	<p>□ボランティア募集の仕方やチラシ内容などを検討し、継続して募集ができるよう検討する。また、他地域にも情報提供を行う。(荻田南)</p> <p>□マッチングがかなった地域・団体においては一度期の事例で終わってしまわないよう、連携した取組が継続されるようなフォローを行う。</p> <p>□交流ライブについてはより多くの団体に参加してもらえよう、広く周知募集するとともに、交流ライブ以外に気軽に発言してもらえる場についても検討する。</p> <p>□ボランティア・市民活動センターが有する登録ボランティアの情報を共有し、地域課題との接点を探りつつ、各種活動への参加を働きかける。</p> <p>・現在ボランティアをされている方のきっかけなどから、有効な募集方法を検討してほしい。 ・交流ライブが回を重ねてマンネリ化しないよう、開催形態やテーマ設定、マッチング手法など工夫されたい。また、つながりづくりの場としても活かしてほしい。 ・参加された企業・NPO・地域等へのフォローも続けつつ、今後参加団体を増やすため、まだまちづくり交流ライブを知らない方向けにイベント周知や、これまでの取組成果についても発信されたい。</p>

○	○	<p>【話し合い(対話)の重要性の理解浸透】 各種会議開催時などにおいて幅広い議論・意見交換がなされるよう働きかけるとともに、地域活動協議会はそのような話し合いによって運営されているということが地域住民にも伝わるよう、情報の開示や発信を提案していく。</p>	<p>□地活協会長会において、話し合いの場の重要視を説明し、各種事業において意見交換会やふりかえり機会を設定してもらえよう提案を行った。</p> <p>□「地活会議」(地活協定例会)の開催に向け、町会長会議に構成団体の参加を検討してもらった。(おのおの)</p> <p>□開かれた組織運営をめざすため、定例会の次第や議事内容についての公開を提案した。(墨江)</p> <p>など</p> <p>・粘り強い支援により、これまで定例会では町会長・女性部長のみの参加にとどまっていた地域も、徐々に構成団体が参加されるようになってきている。</p>	<p>□会議はもとより、その他の話し合いについても理解が広がり、提案に対し何らかの場は持つべきという反応を示す地域が多い。</p> <p>・定例会の実施形態のほか、ワークショップや事業振り返りなど、話し合いの場が定着してきている。</p>	<p>□地域においては会議や各種事業が多数あり、新たな話し合いの場の設定を検討するにあたり日程や会場等の面で負担感が生じないよう配慮する必要がある。</p> <p>□上記負担感の低減も含め、参加された方が発言しやすいような環境づくりが必要である。たとえば通常の会議の流れのひとつとして組み込んでもらったり、テーマ・対象・目的を絞ったミニワーク形式での実施、日程を分け少人数で開催するなどの工夫が必要である。</p> <p>□既に開催した地域においては、話し合いの場に関する満足度はおおむね高いことから、未開催の地域にはそうした状況も合わせて伝え、開催に向け働きかける。</p> <p>・話し合いの場については、地活協自律の基礎であり、地域課題の抽出やPDCAサイクルの観点からも重要であるので、上述の点に配慮しながら引き続き支援されたい。</p> <p>・構成団体を対象に昨年度実施したアンケートでは、「地域住民に対して、地域活動協議会で決定した内容について説明があると思いますか。」の項目で肯定的意見が51.5%と低くなっており、地活協に期待される総意形成機能について理解していただき、情報開示を進めていく支援が必要である。</p>
○	○	<p>【話し合い(対話)の場の創出・定着】 時期・場所・機会など、各地域の実情に応じた話し合いの場の創出と定着を目指す。</p>	<p>□『気がするにしゃべろう会』(依羅、8/29) 地域一体となった取組をめざし、定例会以外で地域のさまざまな人が集い語り合う場を提案・開催支援し、「子ども」をテーマにワークショップを行った。</p> <p>□『めっちゃ、しゃべりましょ!!』(荻田北) 「年に何度か開催したい」という地域の意向を踏まえ、年度の早い時期から提案を行った。</p> <p>□盆踊り等大型行事における事前・事後の話し合いの提案(5地域) 自由な意見交換による事業実施準備やふりかえりを行っていただくため、ワークショップ/ミニワーク方式での開催を提案した。</p> <p>など</p> <p>・多様な主体の協議会である地活協の会議において、ワークショップ等参加者広く意見が出やすい形式の導入は、話し合いの活性化に有効と考える。</p>	<p>□『気がするにしゃべろう会』を、自由な話し合いの場として継続的に開催していくことへの理解が得られた。また「子ども」というテーマについて地域課題の共有が図られ、その解決・改善に向けた具体的な動きに向け検討することとなった。(依羅)</p> <p>□『めっちゃ、しゃべりましょ!!』については他の行事との兼ね合いで年度前半の開催は見送られたが、秋口に開催する旨了承され、準備に取りかかった。(荻田北)</p> <p>□盆踊り等にかかる会合において、ワークショップ形式での開催は見送られたが、話し合いの重要性については理解されており、5地域すべてで反省会等話し合いの場をもつていただくことができた。</p> <p>・依羅地域はこれまで町会単位の意識が根強かったが、『気がするにしゃべろう会』で、地域全体で実施するイベントがないとの意見が上がり、新たにイベントを企画する動きが現れたことは、ワークショップ形式の導入による成果である。</p>	<p>□『気がするにしゃべろう会』については、次回開催を提案・企画する。出された意見を実際の活動につなげることも視野に入れるが、それだけにとらわれず、まずは話し合いの場の定着に向け、機械や内容の検討を進める。他地域(荻田北)における成功事例も参考にしつつ、地域ニーズに合った形での話し合いの場となるよう支援する。(依羅)</p> <p>□複数テーマによる話し合いのほか、個別で関心の高いテーマについても別途話し合いの場の設定を検討する。(荻田北)</p> <p>□ワークショップ以外の形式・手法でも、広く意見を募り活動に活かすサイクルの理解・定着に向けた支援を継続する。</p> <p>・今後はワークショップで出た意見を実現・改善につなげる支援も注力されたい。</p> <p>・ワークショップ以外の形式・手法でも、広く意見を募り活動に活かすサイクルの理解・定着に向けた支援に期待する。</p>

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)				
(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	アドバイザー:業務の総合的把握・管理、地域まちづくり支援員の指揮監督 地域まちづくり支援員:担当4地域への運営支援	アドバイザー:1名、地域まちづくり支援員:3名 支援活動を統括するアドバイザーのもと、12地域を3名の支援員による主/副担当制により支援。 ・アドバイザーの指示のもと、3名の支援員が連携・協力しながら、担当の地域に対し適切で丁寧に業務を遂行している。また、区役所内に設置されたセンターに常駐し、区役所や地域と常にやりとりできる体制を整えている。	<input type="checkbox"/> 主/副担当制の導入により、重複日程等の調整が可能に <input type="checkbox"/> 主/副それぞれの担当地域における情報を共有、他地域事例も参考にしながら支援 <input type="checkbox"/> 支援員間の情報・ノウハウ共有により、基本的な支援手法についてはある程度平準化 <input type="checkbox"/> アドバイザーにより支援状況を統括 ・主/副担当およびアドバイザーが分担して、各地域への支援をおこなっている。	<input type="checkbox"/> 支援員間の情報共有を着実にを行い、交代等が生じても対応可能なよう体制を整備 ・日頃から支援員間の情報共有・連携がなされ、支援体制が整備されている。
(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	ワークショップ開催等で臨時的にスタッフの増員が必要な場合は、受託元の住吉区社会福祉協議会に支援要請を行いフォロー体制を組む。 また、欠員や問題・課題が生じた場合には、受託元へ報告し法人として速やかな対処が行えるよう備えている。	<input type="checkbox"/> 常時、連絡・報告ができる体制を整備(まちセン内・区役所見守り・社協) <input type="checkbox"/> 月次ミーティングにおいて情報を共有 <input type="checkbox"/> 各種行事等において人員が必要な場合は、社協から応援を派遣 ・受託者と日常的な連絡・報告や、定期的なミーティングをおこなっている。	<input type="checkbox"/> 支援体制を整備することにより、支援員の交代が生じたときに速やかに欠員補充などの対応ができる。 ・日常的な連絡や月次ミーティングにて受託者と情報共有を行い、欠員が生じた際は応援が派遣された。	<input type="checkbox"/> 欠員や問題・課題が生じた場合には、社協・まちづくりセンター間の調整とともに、受託元へ速やかに報告、対応を協議 ・欠員が生じた際、支援員間の情報共有・フォローがよくおこなわれていたが、業務量が膨大なこともあり、速やかな人員補充が必要であった。受託者とよく連携し、必要に応じて速やかなバックアップ体制の構築を求める。
(3)区のマネジメントに対応した取組		<input type="checkbox"/> 地域活動協議会会長会の開催 地活協会長及び役員との意見交換・連携促進の場として、会長会を区役所とともに月例開催し、まちセン及び区役所からの依頼・報告事項の情報提供や、地活協の取組紹介等を行った。 4月:地域活動協議会 補助金会計処理について 平成31年度まちづくりセンターの実施する支援について 5月:地域活動協議会 補助金会計処理について 「キラリ!ポスター・チラシづくりセミナー」の開催について 6月:「まちづくり交流ライブin住吉」(第5回)の開催について 地域公共人材の活用について 7月:仮精算のお願いについて 事業における「事業の効果測定」について ※8月は休会 <input type="checkbox"/> 朝礼、日次ミーティング 当日の予定や前日までの会議・行事等の状況等につき情報共有、取組方針等につき指示・助言を受ける <input type="checkbox"/> 進捗管理 各地域の取組支援状況につき報告・情報共有、指示・助言を受ける <input type="checkbox"/> その他、状況に応じ随時打合せ ・年10回開催される地域活動協議会会長会の場で、地活協への依頼や情報提供、取組紹介をおこなっている。また、後日各地域で開催される定例会にも出向き、改めて説明を行うことで役員間の周知理解を進めている。	<input type="checkbox"/> 会長会において先行して周知を行うことで、その後の地域ごとの会議における周知浸透が円滑になる。 区内地活協全体で取り組んでいただきたい事案につき、共通理解が得られる場となる。 <input type="checkbox"/> 地域の定例会において支援員が再度説明することにより、役員間の周知理解が進み、疑問点や不明点についてもその場で対応することが可能となる。 <input type="checkbox"/> 日次の情報共有により、地域課との細やかな連携体制が構築できる。 ・日時のミーティングにより地域課・まちセンが細やかに連携し、迅速に課題把握・対応がおこなえる。	<input type="checkbox"/> 社協も含め、地域課との連携を進めつつ支援にあたる。 ・他地域の状況を知ることは、地域にとって有効であり、特に生の声は影響力が大きい。積極的に取組紹介を行い、情報提供・情報交換の場として会長会の時間を有効に活用されたい。

事業の実施体制等

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
①若い世代など幅広い市民参画の促進、地域における担い手育成や人材育成への助言、指導	多様な市民の地域参加・参画の機会の創出と地域に応じた取組策の検討・実施を支援	<p>□ネット！わくわく講座(長居) 健康体操や防犯教室など、参加者ニーズに応じた内容を実施。企画に関する助言や、アンケート提案、チラシ原案の作成などの支援を行った。</p> <p>□PC教室の開催(山之内、6月～) 広報に関する地域ニーズへの対応と担い手の発掘を目的として、地域NPOに講師を依頼し月一回開催。 (※2(1)【広報の充実】再掲)</p> <p>□地域のニーズに対応し、本年度より百歳体操を開始。関係機関との調整や宣伝案内チラシの作成、会場レイアウトに関する助言等支援を行った。(苅田南) (※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>□担い手発掘の取組としてボランティアの募集を提案。広報紙配布CBとともにチラシを配布することを提案し、チラシ作成などの支援を行った。(苅田南) (※2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p> <p>など</p>	<p>□ネット！わくわく講座については、継続して支援を行う中で、アンケートに基づく企画の検討や講師依頼、会場手配等を自主的・自発的に進めていただけるようになってきている。講座開催会場での参加者の声から百歳体操の実施につながるなど、活動の広がりも見せている。</p> <p>□山之内PC教室は、新たな参加者の募集と獲得のほか、参加によるスキルアップがチラシづくりなど地域の広報活動に活用されることを目途としており、担い手の発掘と育成の両面においても効果をもたらした。また、地域NPOに講師依頼をすることで、新たなつながりの構築ともなっている。 (※2(1)【広報の充実】再掲)</p> <p>□新規に事業を開始したことに対する満足の声が多い。使用する機材や会場設備などについて意見を聴取し、よりよい実施に向け地域とともに検討している。(苅田南) (※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p>	<p>□ネット！わくわく講座の積極的な取り組みを好事例として地活協内外で共有し、他の活動の参考としてもらう。</p> <p>□百歳体操事業を継続する中で、参加者・従事者それぞれの声を聞いて改善や改良を行うなど、自立的・自発的な事業実施につながるよう支援する。(苅田南) (※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>□ボランティア募集の仕方やチラシ内容などを検討し、継続して募集ができるよう検討する。また、他地域にも情報提供を行う。(苅田南)(※2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p>
		<p>・ネット！わくわく講座は、参加者ニーズに応じてさまざまな活動が実施され、活動について地活協ホームページや地域広報紙で周知されている。</p> <p>・広報紙配布CBを受託していることにより全戸配布の機会を有していることを活かし、併せて地活協のチラシの配布をおこなったことは、新たな情報発信の手段として評価できる。ボランティア募集のほかにも地活協の認知度向上や活動紹介、イベント周知など様々な情報発信が行えるので、今後地域広報紙として定期的に発行する形態づくりも視野に入れつつ、活用を続けられたい。 (※2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p>	<p>・ネット！わくわく講座は、地域で自律的・活発に取組が検討・実施されている好事例である。</p> <p>・PC教室の事例は、NPOの強みを活かしつつ、元々興味をもつ参加者のスキルを伸ばしながら担い手としての育成を兼ねており、好事例として他地域にも広げられたい。 (※2(1)【広報の充実】再掲)</p> <p>・百歳体操の開始にあたって、地域ニーズの把握から新規事業実施に至るまで、関係機関との調整や広報支援をおこない、新たな参加者の獲得につながった。 (※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p>	<p>・好事例については積極的に他地域に情報提供し、広げていただきたい。</p> <p>・現在ボランティアをされている方のきっかけなどから、有効な募集方法を検討してほしい。 (※2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p>

<p>②地域活動協議会の認知度向上に向けた支援</p>	<p>地域行事の実施主体について効果的に認識される工夫等を助言 地活協ごとの広報力向上のための個別支援</p>	<p>※2(1)【広報の充実】再掲</p> <p>□『キラリ！ポスター・チラシづくりセミナー』(6/17) 興味を引き目に止まるようなデザインのチラシやポスターの作成をめざし、地域公共人材を活用してセミナーを開催(6/17)</p> <p>□広報紙にかかる支援 ・広報紙発行にかかる支援 長居:前年度の広報委員会設置から初号発行(3月)までの支援に引き続き、本年度も第2号(6月)の発行に関わる支援を行った。 東粉浜:前年度よりレイアウト提案、発行体制の検討などを支援、本年度中の発行をめざす ・地活協広報紙発行の提案 区広報紙配布CBを実施している地域(東粉浜、山之内、苅田南、苅田北)において、広報紙発行を提案。</p> <p>□PC教室の開催(山之内、6月～) 広報に関する地域ニーズへの対応と担い手の発掘を目的として、地域NPOに講師を依頼し月一回開催。</p> <p>□ICTにかかる支援 ホームページ未開設の地域(3地域/12地域)に対し、開設の提案やサンプルページの作成等を行っている。 情報更新と閲覧者との双方向のやり取りが可能なSNSにつき、既設地域(4地域/12地域)においては運用にかかる支援を、その他の未設地域においては情報提供や開設提案を行っている。</p> <p>□盆踊りの配布物に「詐欺に注意しましょう」などの文言と地活協名の印刷された『地活シール』を貼付(苅田、苅田南) など</p>	<p>※2(1)【広報の充実】再掲</p> <p>□セミナー参加者からは好評をいただいております、継続的に地域で取組む必要性についても一定理解を得られたと考える。 [アンケート結果] 大変よかった・よかった →90% 今後もぜひ参加したい・参加したい →80%</p> <p>□インターネットから距離の遠い世代への訴求という観点から、高齢者層が手にしやすい紙媒体での広報について関心をもつ地域が多く、広報紙の発行に向けた理解が進んでいる。</p> <p>□山之内PC教室は、新たな参加者の募集と獲得のほか、参加によるスキルアップがチラシづくりなど地域の広報活動に活用されることを目途としており、担い手の発掘と育成の両面においても効果をもたらした。また、地域NPOに講師依頼をすることで、新たなつながりの構築ともなっている。</p> <p>□地活協会長会での提案など、折に触れ提言・助言を行い、継続的に情報発信の重要性を説明することで、既にホームページを開設している地域においては役員間の認知度が向上し、未開設の地域においても担当者の発掘など開設の準備が進んでいる。</p> <p>□『地活シール』については、既に何度か発行・貼付している地域ではその活用についての理解が相当深まっており、未実施の地域からも問い合わせがあるなど関心をもたれている。</p>	<p>※2(1)【広報の充実】再掲</p> <p>□チラシ・ポスターづくりについては、アンケート結果も踏まえ、地域公共人材の活用も含めつつ、地域ごと・事業ごとに関心事に合わせたセミナーの開催を提案・検討する。</p> <p>□広報紙発行への興味を動き出しにつなげられるよう、先行2地域や他区の情報・状況提供や、既存広報素材・チラシ・ポスターの更新や、簡素なレイアウトのプレ版の発行など、取り組みやすいものについて提案・支援を行う。</p> <p>□ICTの活用については、継続した提案説明により理解が深まり、取り組んでいただける地域も増えているが、運用面においては掲載情報や更新頻度、プライバシー配慮等留意する必要がある事項に関し、周知徹底を図る必要がある。また、住民に向けても認知度が高まるよう、周知に努める。</p> <p>□「地域活動協議会」(名)の視覚的な露出機会を増やす取組を検討する。</p>
		<p>※2(1)【広報の充実】再掲</p> <p>・広報について、新規開始～開始後の運用支援～担当者のスキルアップなど、幅広く継続的に支援している。 ・地域広報紙の広報委員会やICT担当者を立てるにあたって、新たな若手人材の登用や、担い手の育成につながっており、評価できる。</p>	<p>※2(1)【広報の充実】再掲</p> <p>・『キラリ！ポスター・チラシづくりセミナー』は、全12地活協のチラシ・ポスター作成に携わる方を対象に開催され、20名以上の方が参加された。セミナーでは参加者のスキルアップとともに、グループワークにより地域間の情報交換が行われ、アンケートでも好評であった。 ・長居地域で発行された地域広報紙「長居付近」創刊号(H31.3発行)では、地域のシンボルにしたいお花を募集し、6月末時点で40通を超える応募が寄せられるなどの反響があった。 ・PC教室の事例は、NPOの強みを活かしつつ、元々興味をもつ参加者のスキルを伸ばしながら担い手としての育成を兼ねており、好事例として他地域にも広げられたい。</p>	<p>※2(1)【広報の充実】再掲</p> <p>・チラシ・ポスターづくりセミナー実施後のアンケートでは、広報のみでなく他分野でのセミナー希望も伺えたので、必要に応じて地域公共人材など活用しながら、地域の要望に応じてもらいたい。 ・地域広報紙は、自身で情報を見に行かないといけない電子媒体と比べ、簡単に全住民に情報発信が可能な手段であるので、引き続き広めていってほしい。 ・対して電子媒体は即時性があり、直前の開催判断や場所変更など手軽に発信できるので、こちらも併せて引き続きの支援を願いたい。更新頻度や内容のブラッシュアップについて助言をおこなうとともに、地域住民に電子広報媒体の存在を知ってもらうための「広報の広報」支援策についても検討されたい。</p>

<p>③自主財源の確保に向けた情報提供や申請等手続きの助言・支援</p>	<p>自主財源獲得に向けた情報収集・情報整理・積極的提供</p>	<p>□コミュニティビジネスの提案 ・コミュニティ回収の提案(6地域/12地域) ・自転車適正利用啓発事業の提案(墨江) ・広報紙配布事業の提案(5地域/12地域)</p> <p>□コミュニティビジネスの実施支援 ・提出書類、税務等事務処理にかかるサポート(東粉浜、荏田南、荏田北) ・事業実施に向けての説明会や従事者間の意見交換の場の提案・設定(荏田南、荏田北)</p> <p>□ペットボトル回収の提案 ・会長会での環境局の説明にもとづき、各地域の定例会においても再度説明、情報を提供</p> <p>など</p> <p>・コミュニティ回収導入検討などの議論を契機に、地活協単位の合意形成がすすんでいる。</p>	<p>□前年度においては折を見てのCB提案により地域に興味関心をもってもらい、担当部局による説明会の開催から着手決定に至った(住吉:コミュニティ回収、荏田北:広報紙配布)経緯があり、今年度においても継続して提案を実施し、説明会の開催までは実現している(墨江:コミュニティ回収、住吉:ペットボトル回収)。</p> <p>□CBに限らず各事業実施の途中において従事者意見の聴取や意見交換の場の設定を提案しており、いずれの地域でも理解をもって受け入れられている。(荏田南、荏田北)</p> <p>・前年度の地活協会会長会で実施した、先行地域からの取組紹介を機に、コミュニティ回収が広がりを見せている。 ・住吉地域は3小2中学校区にまたがる広い地域だが、今年度6月よりコミュニティ回収を開始するなど、地活協単位の活動ができています。</p>	<p>□助成金公募やバザーの開催など、コミュニティビジネス以外の自主財源の獲得についても検討・サポートを行う。</p> <p>・引き続き地域に合わせた自己資金確保の手段を検討するとともに、既実施地域においては得られた自・己資金の使い道を議論する場を企画するなど、地活協自律を促す支援を期待する。</p>
<p>④多様な地域活動主体との連携・協働に向けた支援</p>	<p>まちづくり交流ライブの定期的、継続的な実施 行事前後に対話の機会づくりを促し、話し合いの場の定着を図る</p>	<p>□『第5回まちづくり交流ライブ』の開催(7.2) 前年度の開催時に見えてきた企業・NPOと地域とのつながりを深めるため、協働の実現に向けた企業・NPOと地域とが交流するためのプランを検討し、改めて別の日に実施に向けた打合せを行った。また、参加者同士の交流を深めるための企画を提案した。 (2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p> <p>□交流プランを考える会議1・2(8/21・22) 上記『交流ライブ』発案の「地域と企業・NPOの交流プラン」の実現に向けた打合せを行った。「盆踊り」と「まちあるき」の2案について、それぞれのキーパーソンを募り、日をつけて開催した。</p> <p>□食事サービスのメニュー刷新にあたり、交流ライブ参加の企業を紹介した。(墨江、清水丘)</p> <p>□交流ライブ参加の企業のAED設置にあたり、地域との連携協定締結を提案した。【南住吉】</p> <p>□PC教室実施に際し、地域NPOへの依頼を提案、仲介を行った。(山之内)</p> <p>など</p> <p>・まちづくり交流ライブの場での案出し・マッチングに加え、まちづくり交流ライブの場以外においても、上記のように機会に応じて連携につなげている。</p>	<p>□『交流ライブ』によって企業・NPOと地域とのつながりを構築した事例 ・日本語学校留学生が地域のお祭りに参加(長居) ・海外研修生が盆踊りに参加(荏田・荏田南・荏田北) ・学生NPOが盆踊りの出店のお手伝いをした(荏田) ・商店街が盆踊りへの出店を検討(荏田) (2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p> <p>□継続的に『交流ライブ』を開催することで、地域と連携したい企業・NPOの参加者増とともに、つながりや担い手を求める地域からの参加者も増えている。</p> <p>□『交流ライブ』参加者間の相互理解を深めたいというニーズに対応し、『交流ライブ』とは別の交流機会を持つことで、参加者自身による連携の構築へとつながっている。</p> <p>・交流ライブでは、日本文化に触れ日本人と交流したいという留学生・海外研修生のニーズと、若い方にたくさん盆踊りに参加してほしいという地域のニーズをマッチングさせた。今後よりお互いに有益な協働となり、つながりが続いていこう、役割をもった参加ができれば尚良い。 (2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p>	<p>□『交流ライブ』参加者同士、地域と企業・NPOが自発的に連携して取り組むことができることをめざす。</p> <p>□話し合いにより地域活動・事業のPDCAが回るよう、点から線へとつながる支援内容を検討する。</p> <p>・交流ライブが回を重ねてマンネリ化しないよう、開催形態やテーマ設定、マッチング手法など工夫されたい。また、つながりづくりの場としても活かしてほしい。 (2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p> <p>・参加された企業・NPO・地域等へのフォローも続けつつ、今後参加団体を増やすため、まだまちづくり交流ライブを知らない方向けにイベント周知や、これまでの取組成果についても発信されたい。 (2(1)【人材・担い手の発掘】再掲)</p> <p>・交流プランを考える会議のように、交流ライブで出た意見を実現につなげる次のステップについても引き続き用意されたい。</p>

⑤地域活動協議会の事務局機能辞意実に向けた支援、開かれた組織運営、会計等の透明性確保に向けた助言・指導	補助金申請、精算事務に関する全体・個別の説明会を開催。加えて仮精算など各地域状況に応じたきめ細かいサポートを実施	<p>□地域によって会計スキルに差があることから、全体的な説明会は開催せず、地域ごとの要望に合わせ対応している。</p> <p>□7月より改正された補助対象経費の支払いにおけるクレジットカード・ポイントカード等の使用について、会長会における地域課の情報提供を受け各地域の定例会において説明、資料提供等を行った。</p>	<p>□各地域の会計担当者と密なコミュニケーションを取ることで、会計処理上の不明点などについて速やかな対応が可能となり、個々の事業の特性や実施状況をスムーズに把握することができる。</p>	<p>□自律度の高い地域においては、総会計はもとより各事業の会計担当者の理解度が高いことから、現在自律度を高められるよう取り組んでいる地域においても、個別サポート等きめ細やかな対応を心がけ、各担当者のスキルの向上によって地域の会計処理能力全体の底上げを図る。</p>
⑥区内の地域活動協議会の情報交換や連携の促進	同一事業に携わる従事者間での交流の場・情報交換の場の設定	<p>(※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>□各種事業の視察やヒアリングなどを行い、事業担当者、区役所支援室、区役所、福祉系事業者、社協などと情報を共有。意見交換の場でチラシの作成や他事業との連携、食事サービスのメニュー改善などを提案。地域においても、従事者の意見交換の場の設定や利用者アンケートのなどを提案・実施。</p> <p>□各種事業従事者の連絡会、交流会や常駐委員会、NW会議等の開催を社協とともに支援しつつ、情報収集などを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども見守り隊(全地域) ・高齢者食事サービス(全地域) ・子育てサロン(全地域) ・見守りボランティア(全地域) ・常駐支援員会議(遠里小野、依羅) <p>など</p>	<p>(※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>□ふれあい喫茶において従事者の生の声を聴取、事業の現状やニーズに応じた取組をともに考えることで、地域で事業を見直す契機とした。(荻田)</p> <p>□子育てサロンにおいて、参加者に喜んでもらえるような企画内容を地域とともに検討した。(荻田北)</p> <p>□各種事業や会議において、地域でかかわる社協、地区社協、保健福祉センターなどと情報交換・共有を行うことで、組織間のつながりを構築している。</p> <p>□交流会や連絡会においては、参加者同士の情報共有の場を設定することで、地域が他地域の状況を知り、自身の地域での事業改善等につなげることが期待できる。また、視察等交流機会の検討も行われている。</p>	<p>(※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>□他地域の取組事例を紹介、見学の提案などを行う。</p> <p>□事業実施現場を訪問・視察することは、従事状況の確認のみならず参加者の意見を収集できる貴重な機会であり、また福祉系事業者や社協ボランティアとも情報共有・意見交換できることから、社協と密に連携、支援することで、よりさまざまな地域課題や住民ニーズの把握が可能となると考える。</p> <p>□地域ごと、部門ごとあるいは部門相互の横のつながりを構築することで、情報交換・共有を図ることができるような支援が引き続き必要であると考えられる。</p>
		<p>(※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>・日常的に地域によく出向き、ニーズの拾い上げから事業改善に至るまで、受託者と連携しながら行っている。</p> <p>・連絡会や交流会のように、事業担当者間の情報交換や横のつながりとなる場合は有効であると考えられる。</p>	<p>(※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>・百歳体操の開始にあたって、地域ニーズの把握から新規事業実施に至るまで、関係機関との調整や広報支援をおこない、新たな参加者の獲得につながった。</p>	<p>(※2(1)【事業内容のブラッシュアップの提案】再掲)</p> <p>・マンネリ化することのないよう、引き続き有意義な情報交換・共有が図られるよう支援を続けられたい。また、好事例については他地域に広げていただきたい。</p> <p>・組織の強みを活かし、区を超えた好事例についても情報収集・情報提供いただきたい。</p>